

Q：ではどうやって温暖化を防ぎながら、原発をなくしていく事ができるのでしょうか？

A：福島原発事故を受けて、人間や家畜が避難せざるを得ない放射能の放出、広範囲に渡る継続した被曝体験という取り返しのつかない原発の危険性を誰もが実感しました。そして間違った「温暖化対策」キャンペーンの名の下、原発が推進されて来た事を知りました。今後は、省エネを進めながら新しい技術を積極的に導入し、再生可能な自然エネルギーの割合を高めて、エネルギーシフトを実現していく事が求められるでしょう。

福島事故後 4 日目に、ドイツのメルケル首相が自国の 7 基の原発停止命令を即時出し、大きく脱原発に路線を変更しました。「ドイツ安全エネルギー倫理委員会」の委員でもあるミランダ・シュラーズさんは、福島原発ほどの事故がドイツで起こっていれば、あらゆる状況に関わらず翌日全原発の停止が実施されていたらと発言されています。

その意味では、危険性の高い「浜岡原発」に停止要請がまず出された事は、一定の評価を与えて良いでしょう。

今後仮に、一時二酸化炭素が増加しても原発を止めて他の発電設備を稼働させるなど、既存の枠組みを越えて考えるべき時に来ていると言って過言ではありません。

二酸化炭素の排出量が少ないハイブリッド LNG 火力（天然ガス、熱効率 56 %）を導入して、石油火力や石炭火力を段階的に廃止していくシナリオが世界的な自然エネルギー移行へのプロセスです。同時に、ウラン・石油・天然ガスの輸入で使用している 24 兆円の配分を振り分けて、更なる省エネ技術の導入にも予算をつけ、数年をかけて 20 %程度の省エネ実施を目指します。各種自然エネルギーの導入を全体の 30 %以上になるよう努め、LNG が増えても総量で規制がかかるようにします。

また発電所のみで規制をしていくのではなく、世界全体の二酸化炭素 **20 %**を占めるとも言われている、ガソリン車を電気自動車に置き換えていく事で、排出量は **1/10** となり、**18 %**の排出量削減となります。

この電気自動車に搭載するバッテリーを高効率化する事で、ピーク時に使用する電気を自動車に貯めておく事が出来れば、ピークカットが実現出来ます。同じ電池をトロリーバスや電車にも積む事によって、送電線をなくす事が出来れば、インフラは簡素化され、コストパフォーマンスが飛躍的に向上し、エネルギー予算を再配分する事が可能となります。

放射能で土地を追われ、故郷をなくして、放射線の影響にびくびくしながら生きる人生は間違っていると、誰もが認識した今こそ、知恵を出し合い、持てる力をフル回転して、舵を切り直す最後のチャンスです。世界へ警鐘を鳴らした福島原発事故を最後の原子力災害として、技術立国日本が新しいエネルギーシフトを世界に示しお手本となるようエネルギー政策の転換を実現させましょう。